

作成日：2026 年 6 月 19 日

版数：第 1.0 版

単施設研究用

【情報公開文書】

精神科入院患者における個別作業療法実施前後のパーソナルリカバリーの変化 と作業療法実施回数との関連についての研究

1. 研究の対象

この研究は、秋田大学医学部附属病院 精神科病棟に入院された方で、以下の条件に該当する方を対象としています。

- 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに、個別作業療法（疾患別リハビリテーション）を受けた方
- パーソナルリカバリーに関するアンケート評価を受けた方

2. 研究目的・方法

近年、精神科リハビリテーションでは「パーソナルリカバリー」という考え方が重視されています。

パーソナルリカバリーとは、病気の症状が軽くなるという意味だけでなく、本人が希望を持ち、自分らしい生活を取り戻していく過程を指します。たとえば「自分のペースで生活できるようになる」「人とのつながりを感じられるようになる」といった、個人の価値観に基づいた回復のことです。

作業療法は、対象者が目的や価値のある作業に取り組むことを通して、自分で考え行動する力（主体性）を取り戻す支援を行う実践です。そのため、パーソナルリカバリーの考え方と深く関わる取り組みといえます。

本研究では、精神科入院患者に対して実施された個別作業療法に着目し、実施前後におけるパーソナルリカバリーの変化を検討するとともに、その特徴を明らかにすることを目的としています。

この研究では、すでに記録されている診療やアンケートの結果のみを使用します。新たに検査や質問をお願いすることはありません。

既存のデータには、性別、年齢、診断名、合併症、入院日数、教育年数、個別・集団作業療法の回数、日本語版 24 項目 Recovery Assessment Scale (RAS) などの臨床・調査情報が含まれます。

研究実施期間：研究機関の長の許可日～2028 年 3 月 31 日

試料・情報の利用及び提供開始予定日：2026 年 7 月 27 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では、以下のようなすでに取得されている情報を使用します。

- ・パーソナルリカバリー評価の結果（日本語版 24 項目 Recovery Assessment Scale）
- ・年齢、性別、診断名、入院日数などの基本情報

これらの情報は、研究用の番号を付けて管理し、個人が特定されないように厳重に取り扱います。外部機関への提供はございません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

リハビリテーション部

作業療法士

小野寺 佑麻（研究責任者）

住所：〒010-8543 秋田市広面蓮沼 44-2

電話：018-884-6373

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科

研究科長 宮腰 尚久